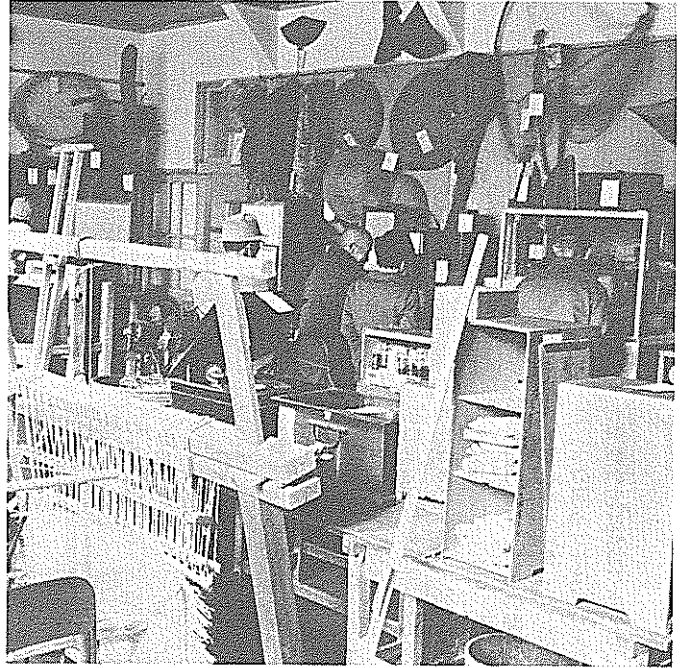


# 祖先の心

## たいせつに

### 長岡民具保存会が10周年



約1000点の民具がならぶ

「失われていく民族文化——民具を大切に保存していこう」と十年前にうぶ声を上げた長岡民具保存会が、十一月二十二日、十周年を記念して、集めた農村民具や衣料千余点の展示公開をしました。いつもは一部屋に詰め込まれている民具や衣料ですが、この日は三つの部屋と廊下にゆつたりとしたスペースで展示され、訪れる方も昔をなつかしんで、説明を読みながらじっくり見学をしています。

顔のしわに年輪を感じさせるお年寄りが、「子供のころは、暗いうちに起こされ、明けの代わりにはたいまつを持っているのが自分の役目だった。昔は仕事の時間も長く、飯も日に四、五回もとり、二升飯も食べた。また食べなければやっていけなかった。」と当時の農家の生活の厳しさを語ってくれました。またこの日は、これからの民具館充実のための座談会が開かれ、その中で、「民具館建設は無理かもしれないが、長岡小新築の際にでも、もっと広い部屋を作ってもらえないか。」「民具を展示するだけでなく、どのように使ったか写真やマンガで説明を加えるようにしては。」など積極的な意見が出ました。我々の祖先が使用してきた道具それには祖先の汗がしみ込み、祖先の魂が生きています。何もかもが合理的にと機械化の進む今、もう一度、見直してみたいかがですか。＊家を取りこわしたり改築するときに、古い道具が出てきたら社会教育課☎21111（内線314）か長岡民具保存会まで連絡してください。

## 尾長鶏の飼育に

### 生涯をかけた

#### 故窪田正氏の頌徳碑建立



故窪田正さん

「土佐のオナガドリ」を国内はもとより、外国にまでその名を広めた——故窪田正（まさし）氏の頌徳碑が、長尾鶏センター（篠原）に建てられ、十二月五日、その除幕式が行われました。

式典には、小笠原市長をはじめ窪田さんの生前の親しい人たちやご家族ら約六十名が出席、窪田さんのお孫さん二人が除幕をしたあと、玉串をささげて、窪田さんの功績をしのびました。

頌徳碑は、台座が青御影石（高さ六〇センチ）、碑が黒御影石（高さ一七センチ、幅六〇センチ）で造られ、オナガドリが白く彫り込まれています。

窪田正氏の略歴  
○明治44年6月2日、南国市篠原に生まれる。  
○昭和6年3月、高知城東商業学校（現在の高知高校）卒業。  
○昭和21年3月、大森村収入役に就任、同年7月に退職、農業に従事するかたわら「オナガドリ」の飼育をはじめた。  
以後、農業のかたわら、「オナガドリ」の改良、育成に打ちこむ。  
○昭和55年12月31日、69歳で亡くなる。



窪田さんの碑の除幕式